

## 様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校熊本校
設置者名	学校法人 大原学園

### 1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
商業実務専門課程	ビジネス学科	夜・通信	13 単位	7 単位	
文化・教養専門課程	公務員2年制学科	夜・通信	4 単位	7 単位	※
	公務員1年制学科	夜・通信	4 単位	4 単位	
(備考)					

### 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/">https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</a>
---

### 3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 公務員2年制学科
(困難である理由) 当校の公務員2年制学科は、公務員を目指す学科であり、入学生のほぼ全員が官公庁事務職もしくは警察消防等の公安職への就職を希望している。公務員の実務には守秘性が高いものが多く、また警察消防などの公安職には危険度の高い専門的な業務などもあり、これらの公務員の実務を学ぶことは実際困難であると考えている。公務員等採用試験に於いても、実務経験やスキルが求められることがなく、必要条件とも望ましい条件ともされていない。公務員等採用試験に合格するためには、必要な教養科目及び専門科目の知識を身に着けることが不可欠であり、当校では公務員試験に向けての知識の習得に多くの時間を割り振っている。該当学科における「実務経験のある教員」としては公務員が想定されるが、上記の科目知識習得のための授業の教員としては、公務員である必要はないと考えている。以上の理由のため、学科及び分野の特性等により実務経験のある教員等による授業科目を配置することは困難であると考えている。しかしながら、実務家による授業には利点も多いため、できるだけ実施出来るように努力し、可能な範囲で授業設置をしている。入学後、官公庁研究や自治体の動きなど、卒業後を見越した演習や実習も取り入れ、実践教育にも力を入れている。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校熊本校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2025.5.29～4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	法人運営における法務的な検証、管理
非常勤	Webデザイン・システム開発・印刷関連企業 代表	2025.5.29～4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学生募集、教材開発への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原ビジネス公務員専門学校熊本校
設置者名	学校法人 大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p>	
<p>1. 授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <p>各学科の教務会議及び授業研究により、授業内容、授業方略、到達目標、目標到達までの学習順序や手順、成績評価の方法などが、授業科目の特性、専門分野における知識や技術の進歩、社会の変化などに適合し、最良なものであるかを検証している。また、教育課程編成委員会を設置し、外部委員より意見を頂戴し、見直しを行うことで、授業計画(シラバス)を含む教育課程編成全体の改善を行っている。</p>	
<p>2. 授業計画書の作成・公表時期</p> <p>前年度の授業計画書(シラバス)を基に各学科の教務会議にて、振り返りと見直しが行われる。さらに、年2回開催される外部委員を招いた教育課程編成委員会で聴取した意見を踏まえて、次年度の方針や改善策が決定される。その内容に従って科目担当者が授業計画書(シラバス)を作成し、教務会議での確認および承認を経て、当該年度4月にホームページにて公開される。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/">https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認められた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。なお、学生に対しては当該規定を学生便覧に記載して周知を図っている。

【学業成績の判定および成績証明書の表記】

判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	90 点以上～100 点	秀	秀
	80 点以上～90 点未満	優	優
	70 点以上～80 点未満	良	良
	60 点以上～70 点未満	可	可
不合格	60 点未満	不可	不可

※出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- (1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。
- (2) 授業科目の成績は、(1)の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、下記に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。

【科目ごとの成績評価に対するGP (Grade Point)】

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	90 点以上～100 点	
優	3	80 点以上～90 点未満	
良	2	70 点以上～80 点未満	
可	1	60 点以上～70 点未満	
不可	0	60 点未満	
認定	—	—	対象外

【GPA 算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修科目のGP} \times \text{履修単位数}) \text{の合計}}{\text{総履修単位数}}$$

※小数点以下第2位四捨五入

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

《修了・卒業について》

修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間の履修および授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。

ビジネス学科 62 単位

公務員 2 年制学科 62 単位

公務員 1 年制学科 31 単位

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校熊本校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	ホームページで公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/business_report.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/business_report.pdf</a>
監事による監査報告（書）	ホームページで公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/audit_report.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/audit_report.pdf</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ビジネス学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位	129 単位	332 単位	9 単位	0 単位	0 単位
470単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		98人	0人	4人	1人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教務会議及び教育課程編成委員会において、授業カリキュラムが最良なものになっているかを検証している。その後見直しを行うことで、授業計画（シラバス）を含む教育課程編成全体の改善を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。 2. 授業科目の成績は、（1）の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP（Grade-Point）を与える。

卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、各学科の定める単位の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。
学修支援等
(概要) クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の信頼関係を構築し、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	3人 (9.1%)	28人 (84.8%)	2人 (6.1%)
(主な就職、業界等) 会計事務所、一般企業等			
(就職指導内容) 就職教育プログラム（就職ガイダンス、自己分析面談、学内企業セミナー、面接トレーニング等）、入社前準備プログラム（ビジネスマナー、職種別トレーニング等）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本商工会議所主催簿記検定試験1・2・3級 Microsoft office specialist Word 2019 Microsoft office specialist PowerPoint 2019 Microsoft office specialist Excel 2019 税理士試験 簿記論、財務諸表論			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83人	3人	3.6%
(中途退学の主な理由) 就職のため、欠席が多く授業参加が困難、学習意欲の低下 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	公務員2年制学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位	60 単位	81 単位	10 単位	0 単位	0 単位
			151単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		99人	0人	4人	1人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>教務会議及び教育課程編成委員会において、授業カリキュラムが最良なものになっているかを検証している。その後見直しを行うことで、授業計画（シラバス）を含む教育課程編成全体の改善を行っている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>2. 授業科目の成績は、（1）の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりG P（Grade-Point）を与える。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、各学科の定める単位の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。</p>	
学修支援等	
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の信頼関係を構築し、個別学習相談や就職相談などを行っている。</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
36人 (100%)	1人 (2.8%)	35人 (97.2%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>国家公務員（一般職、専門職）、地方公務員（県庁、市役所、町村役場、警察官、消防官）</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>就職教育プログラム（就職ガイダンス、自己分析面談、学内企業セミナー、面接トレーニング等）、入社前準備プログラム（ビジネスマナー、職種別トレーニング等）</p>
<p>(主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>漢字検定2級等</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
99人	12人	12.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更による早期就職、学習意欲の低下、公務員試験に合格したため、病気、授業へついていけず参加が困難等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門課程	公務員1年制学科	-	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31単位	22 単位	42 単位	6 単位	0 単位	0 単位
70単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	16人	0人	1人	1人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教務会議及び教育課程編成委員会において、授業カリキュラムが最良なものになっているかを検証している。その後見直しを行うことで、授業計画（シラバス）を含む教育課程編成全体の改善を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。 2. 授業科目の成績は、（1）の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP（Grade-Point）を与える。
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、各学科の定める単位の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の信頼関係を構築し、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 （100%）	1人 （10.0%）	9人 （90.0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 国家公務員（一般職、専門職）、地方公務員（市役所、町村役場等）			

(就職指導内容) 就職教育プログラム（就職ガイダンス、自己分析面談、学内企業セミナー、面接トレーニング等）、入社前準備プログラム（ビジネスマナー、職種別トレーニング等）
(主な学修成果（資格・検定等）） 漢字検定2級等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	3人	23%
(中途退学の主な理由) 公務員試験に合格したため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ビジネス 学科	150,000円	640,000円	350,000円	その他欄に記載の金額は「教材費」「維持費」「実習費・演習費」の合計
公務員2 年制学科	150,000円	640,000円	290,000円	
公務員1 年制学科	150,000円	640,000円	290,000円	
修学支援 (任意記載事項)				
学費支援制度：試験の結果や取得している資格等に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除（試験による特待生制度、取得資格による特待生制度、クラブ活動による特待生制度）				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 自己点検評価についてはHPに公開している。 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)
1. 学校関係者評価の基本方針について 当校の学校関係者評価の方針は、「学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである」この教育理念に基づき、自己評価を実施し評価結果を踏まえ、自己評価結果の客観性・透明性を高める

こと、学校運営の改善を図ることを目的に、学校外の方を評価者とする学校関係者評価委員会を設置して規定の評価項目から評価する。

2. 学校関係者評価は「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を用いて、評価結果については、学校長を通じて次年度の重点目標の設定や具体的取組などについての学校運営改善を図るものとする。

【主な評価項目】

- (1) 教育理念・目標（理念・目的・育成人物像等）
- (2) 学校運営（運営方針、事業計画、人事・給与制度、意思決定システム等）
- (3) 教育活動（目標設定、教育方法、成績評価、単位認定、資格受験指導等）
- (4) 学修成果（就職率、資格取得率、退学率、卒業生の社会的評価等）
- (5) 学生支援（就職支援、学生相談体制、課外活動支援、保護者等連携等）
- (6) 教育環境（施設・設備、学外実習、インターンシップ、防災・安全管理等）
- (7) 学生の受入れ募集（学生募集活動、入学選考、学納金等）
- (8) 財務（財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開等）
- (9) 法令の遵守（関係法令・設置基準等の遵守、個人情報保護、情報公開等）
- (10) 社会貢献・地域貢献（社会貢献・地域貢献、ボランティア活動等）

3. 評価委員の構成

専門分野における業界関係者、卒業生、地域住民などから3名以上選出する。

4. 評価結果の活用

学校関係者評価委員会は、年度内に1回以上開催し、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価し、各委員による検証・委員からの継続的改善を図る観点より意見・助言を求める。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、学校長の承認を得たうえで次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

第三者評価結果の公表方法

所属	任期	種別
税理士法人 未来税務会計事務所	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
熊本学園大学 商学部	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
税理士法人 未来税務会計事務所	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生委員
熊本大学 法学部	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	企業等委員
防衛相 自衛隊熊本地方協力本部 熊本分駐所	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	企業等委員

学校関係者評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

学校関係者評価についてはホームページに公開している。

<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

第三者による学校評価（任意記載事項）

第三者評価が未実施のため、前年度の学校関係者の情報を記載している。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

当該学校に係る情報についてはホームページに公開している。

<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>